

評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	委員長:馬場先 恵子(金沢学院大学教授) 小林 史彦(金沢大学講師)	平成22年12月10日	都市計画課 (都市再生整備計画担当課)	金沢市都市再生整備計画評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	金沢市町会連合会長 金沢市校下婦人会連絡協議会副会長 金沢経済同友会専務理事				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・その他指標として追加した「公園誘致範囲カバー率」は公園の種別ごとに検証すべきであり、対象を街区公園のみに絞って算出した方がよいとの意見があった。また、できれば可住地あるいは市街化区域の面積に対するカバー率として算出した方がよいとの意見もあった。
	実施過程の評価	・適正であることが確認された。
	効果発現要因の整理	・西金沢駅周辺の主要事業がまだ完成していない現段階で、完成することを想定した評価を行うことは難しいとの意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・妥当であると認められた。
	その他	・公園については、できれば整備後の利用状況を把握しておくことが望ましいとの意見があった。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・新幹線側道整備によって不整形残地が生じた場合に、その残地の活用が今後のまちづくりの課題となるとの意見があった。 ・新幹線高架下は雰囲気や暗い印象を与えるため、それを払拭するような環境整備を併せて進めていくことが望ましいとの意見があった。
	フォローアップ	・西金沢駅周辺の主要事業が完成した後に、フォローアップを適切に実施して今後のまちづくりに反映させるよう意見があった。
	その他	・西金沢駅の西側からのアクセスが可能となれば、今後、周辺の土地利用も大きく変わると予想されることから、西金沢地域の土地利用の変化に対して対策を考えておいた方がよいとの意見があった。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・妥当であると認められた。
その他	・当初の目標値設定にあたっては、都市計画マスタープランとの整合を図りながら、過去の傾向をベースに事業実施効果を上乘せして目標値を設定すべきであるとの意見があった。 ・駅の利用者は、駅舎やその周辺施設が多少改善されたとしてもそれだけで増える要因になるとは言い難いため、利用者の満足度といった指標が望ましいとの意見があった。	